

平成 29 年度事業報告

【概要】

平成 29 年度はあらたに「協会創立百周年」に向けて第一歩の年となった。協会の長期的な取り組みとして読書推進および啓発活動を掲げ、地方自治体や学校、出版社との具体的な連携、また会員が参加できるプログラムなどの調査研究を開始した。

富士霊園内にある「文学碑公苑」の老朽部分の修繕工事を今期から本格的に開始し、第一期としての全体工事が 3 月末に完成、引き渡しとなった。霊園側から施設利用の提案や、案内板等の増設協力も得られており、さらに整備を続けていく。

この一年は継続してきた事業のなかでも著作権に関するものが活発化した年であった。著作権関係各団体や省庁との協力体制がより強化された。また著作権者不明著作物の利用拡大のための取り組みや教育利用に関する協議会、勉強会などへ積極的に参加した。

財務は安定しており 7 期連続の黒字決算である。各事業の報告は以下の通りである。

公益事業 1 普及事業

1 講演会等事業

1) 文芸および著作権に関するイベント

6 年目となり定着している「文芸トークサロン〈しゃべりたい、話したい〉」は、今期はより多彩なゲストを迎えての企画が続いた。とくに手話通訳や要約筆記を用意してのイベントでは、募集ははじめから好評であり毎回満席となった。今後も、こうした障害者も健常者も一緒に楽しんでもらえる、「知る」「学ぶ」「体験する」企画を、シリーズの柱として勘案していきたい。

平成 29 年度 文芸トークサロン《しゃべりたい、話したい》

○4月28日(金)文学サロン 第4回 共催 脱原発社会をめざす文学者の会
「存在者」…わが人生 ゲスト 金子兜太(俳人) 聴き手/黒田杏子(俳人)

○5月26日(金)文芸トークサロン 第41回
「東京のつづりかた この街と文学」ゲスト 小沢信男(作家) 柴崎友香(作家)

○7月13日(木)文学サロン 第5回 共催 脱原発社会をめざす文学者の会
「ロシア文学の現在 ―ペレストロイカからプーチンまで―」
ゲスト 沼野充義(東大教授、文芸評論家)

○8月9日(水)林 京子さんの人と文学を語る会
共催「林 京子さんの人と文学を語る会」講談社レプションルーム
呼びかけ人/加賀乙彦(作家) 三木 卓(作家) 川村 湊(文芸評論家) 森 詠(作家)

○9月14日(木)文学碑公苑・講演会 第17回
「歴史小説を書くこと」ゲスト 林 真理子(作家)
聴き手/出久根達郎(作家、文学者支援委員長)

○9月15日(金)文芸トークサロン 第42回
「付度、はなぜ英語にできないのか 日本語と外来語で考える「世間」の正体」
ゲスト 佐藤直樹(九州工大名誉教授、現代評論家)
峯 真依子(中央学院大学助教授)

○10月27日(金)文芸トークサロン 第43回
「縄田一男と時代小説を語る チャンバラ夜話」ゲスト 縄田一男(文芸評論家)

○11月22日(水)文芸トークサロン 第44回
「中国文学の「いま」―世界でもっともアツい超出版大国の現状レポート」
ゲスト 泉 京鹿(翻訳家)

○11月25日(土)共催 出版UD研究会&なごや会セミナー
ワークショップ「聞いて・感じて、音声による読書の世界」
ゲスト 出版UD研究会/「公共図書館で働く視覚障害職員の会」

- 11月30日(木) 文学サロン 第6回 共催 脱原発社会をめざす文学者の会
ビデオ&スライドによる現地報告 「チェルノブイリ」から「フクシマ」へ
ゲスト 志賀 泉(作家) 大石芳野(報道写真家)
- 2月21日(水) 文芸トークサロン 第45回
「全部見せます! “無頼派系独立候補”たちの選挙戦」
ゲスト 畠山理仁(フリーランスライター) 立花隆志(葛飾区議員) 高橋尚吾(候補者)
- 3月9日(金) 文芸トークサロン 第46回
「小説『デフ・ヴォイス』で伝えたいこと」
ゲスト 丸山正樹氏(作家) 牧原依里(映画監督)

2) 文学碑公苑・講演会

「文学碑公苑・講演会」の第17回を9月14日に開催。ゲスト講師は林 真理子氏で「歴史小説を書くこと」をテーマに、熱心な文学ファン約40名が貸し切りバスで参加した。終了後は、岸信介が晩年を過ごした別荘「東山旧岸亭」を見学、また竹林の散策や敷地内の甘未処「とらや工房」での一服を楽しんだ。

3) 著作権思想普及セミナー支援

著作権についての基礎を学びたい人たちを対象に、全国で実施される文化庁主催のセミナーに今期も資料を送付、協力した。

著作権に関するイベントへの講師派遣の案内を、文化庁、教育委員会、商工会議所などに配布した。8月に教育NPOからの依頼を受けて、著作権管理部長による、東京都市大学附属等々力校・教職員研修会での講演をおこなった。また、新聞、通信社有志による「著作権勉強会」に参画し情報の提供、交換を継続しておこなった。

2 データベース事業

協会ホームページの会員、著作権管理委託者などの公開情報を月次で更新した。コンテンツ・ポータルサイト運営協議会に今期も参加してポータルサイト「JAPACON」の海外向けコンテンツ発信に協力した。また編纂物や講演会等の告知などに加えて、12月から協会のツイッターを開始した。今後は、コンテンツの充実や発信・更新スタッフの確保に取り組み、実効ある広報ツールにしていくのが課題。

3 編纂事業

1) 文藝年鑑の発行

文芸の一年間の動向とトピック等をまとめた「文藝年鑑」を今期も編纂、新潮社より発刊した。「文藝年鑑2017」6月30日発行 定価4,400円(税別 以下同) 編纂委員/川村 湊 青山 南 紅野謙介 沼野充義 三浦雅士
編纂委員会では「概観」執筆者の選考やページ立ての変更を協議し、実行した。また「便覧」の個人情報の扱いを検討して、封書の改良や掲載者の意思確認の手立ての強化につとめた。

2) 文芸アンソロジーの発刊

休刊していた時代小説アンソロジーが「時代小説ザ・ベスト」として集英社より文庫版で復刊して2年目となった。これを含めて以下の5冊を編纂し各出版社より刊行した。

「文学2017」4月20日 講談社発行 定価3,500円

編纂委員/川村 湊 島田雅彦 富岡幸一郎 中沢けい 沼野充義

「短篇ベストコレクション 現代の小説2017」6月15日 徳間書店発行 定価760円

編纂委員/川村 湊 清原康正 杉江松恋 森下一仁

「時代小説ザ・ベスト2017」6月30日 集英社発行 定価880円

編纂委員/川村 湊 雨宮由希夫 末國善己 竹田真砂子 縄田一男

「ベストエッセイ2017」6月25日 光村図書発行 定価2,000円

編纂委員/川村 湊 角田光代 林 真理子 藤沢 周 町田 康 三浦しをん

3) 編纂物の海外寄贈

現代日本の文芸を海外の研究者や愛好家に広め、理解してもらうために、「文藝年鑑2017」および「文学2017」、「短篇ベストコレクション 現代の小説2017」、「時代小説ザ・ベスト2017」、「ベスト・エッセイ2017」の年次アンソロジーをセットで、海外の日本文学、日本文化研究センター、大学や教育機関などに寄贈した。寄贈先は、当初の40か所から今期は計54か所となっている。

4 文学モニュメント運営事業

富士霊園「文学碑公苑」内の「文学者之墓」墓前祭は、10月5日に文学者支援委員会・出久根達郎委員長、山田隆昭副委員長が出席し、参列者141名とともに挙行了。7月には第9期墓碑が完成し、第10期の建設地も確保した。公苑内の老朽部分の第1回の補修工事も2018年3月末に終了している。

5 文藝家協会ニュース発刊事業

会報紙「文藝家協会ニュース」No. 771～779を、年9回発行して、理事会報告など会員に必要な情報の提供および告知広報をおこなった。7月開催の「各都市巡回文藝イベント 第10回〈東京〉」報告を別冊として9月に発行した。また「定時総会議事資料」を4月に制作し配布、1月号に合わせ「税のお知らせ」を制作、会員に配布した。

6 障害者等支援事業

社会福祉協議会等から申請を受けた、録音図書と拡大写本についての無料許諾をおこなった。今期の許諾件数は12月現在で録音図書が160件、拡大写本が24件。

6月「全国音訳ボランティアネットワーク設立10周年記念講演会・懇親会」に出席、三田誠広副理事長が講師として参加。懇親会ではボランティア団体、図書館、文科省、盲学校教諭など、さまざまな立場の人たちと情報交換をおこなった。7月「第18回 共用品推進機構活動報告会」に出席。進行性神経筋疾患難病の海老原宏美氏の講演。11月出版UD研究会と公共図書館で働く視覚障害職員会の会（なごや会）との共催でセミナー、「聞いて・感じて、音声による読書の世界」を日本文藝家協会会議室で実施。1月の新年賀詞交歓会にて障害者への読書支援をしている3団体によるプレゼンテーション「本が足りない―読書支援レポート」を実物の展示もして実施した。3月には手話通訳、要約筆記付きのトークイベントをおこない盛況であった。

公益事業2 著作権管理事業

1 著作権管理事業

平成27年から三田副理事長が会長となり継続している「権利者による権利者不明作品問題を考える勉強会」（通称「オーファンワークス勉強会」）は、今期も実証事業実行委員会の幹部として活動した。関連する文化庁の〈著作権者不明等の場合の裁定制度の利用円滑化に向けた実証事業〉は今期も委託を受けて、第2回の実証事業を実施し、権利者不明著作物の利活用の簡便化に向けて積極的に取り組んでいる。

7月には、著作権思想の啓発活動の一環として、吉村昭記念文学館開館イベントの協賛シンポジウムを開催した。

○7月17日（祝）各都市巡回文藝イベント 第10回 ゆいの森あらかわ ゆいの森ホール

シンポジウム 「漂流民から始まった日米関係―吉村昭を再読する」

ゲスト フレデリック・L・ショット（作家、翻訳家、日米交流史研究者）石田 千（作家）

司会 関川夏央（作家、事業委員長）

これまで年に2回、5年間続けてきたこの各都市巡回文藝イベントは地方会員や地域の文学館との交流に貢献してきたが、この回でひと区切りとし、あらたに「本の未来研究会」の活動とその報告をまとめた冊子の発行をはじめていく。既に「本の未来研究会リポート第1回『本の世界でいま起きていること』（講師 岩波書店 岡本厚社長）を協会ニュース1月号別刷りとして会員に配布している。

2 補償金等受け取りおよび分配事業

「教科書等補償金」は、各教科書会社へ請求して委託者への分配を終了している。「複写使用料」も、入金され今期中に委託者への分配を終えている。一般社団法人 私的録画補償金管理協会（SARVH）は平成27年3月末に業務を廃止したが既に清算は完了している。

私的録音補償金管理協会（SARAH）は、補償金分配が延期されていたが、協議が整い今期中に委託者に分配した。

公益事業3 調査研究事業

1 広報・提案事業

今期も、文化審議会著作権分科会をはじめ関係官庁のヒアリングや協議会、また著作権勉強会や研修会などに理事、事務局員が積極的に参加して、意見要望の発信、協会公益活動の広報につとめた。

東京で開催の都道府県庁著作権担当者講習会では、協会編纂の「著作権 Q&A I・II」が教材として配布使用された。また、企画協力してきた【YouTube】名作朗読チャンネル Bun-Gei が、事業として

立ち上がり運営を開始している。

2 「著作権評価に関する意見書」作成事業

著作権継承者の依頼に応じて、該当する文芸作品の「著作権評価に関する意見書（評価意見書）」を作成し、公正な著作権の評価につとめた。かなりの手間と精緻な作業のため時間が必要な事業であるが、猶予のない依頼や問い合わせが寄せられることがあり、そのための広報を徹底していくことが今後の課題であり、研究していく。

3 連絡仲介事業

著作物利用の相談、依頼に対して確認調査や著作権者への仲介活動を受けて、著作物利用の円滑な実現にあたった。関係団体だけでなく、他業種、一般ユーザーからの問い合わせが拡大している。今期も、大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国立国語研究所からの「現代日本語書き言葉均衡コーパス」に公開目的のサンプルデータ提供の依頼を受けて連絡仲介をおこない、その収益を協会から各関係団体へ送金分配した。また、インターン生の受け入れを夏季3回おこない、使用許諾作業など実践的な著作権講習や講演参加など体験してもらった。協会会議室の公益利用は、オープンワークス実証事業委員会、文芸出版懇談会等の会議場として、また個人会員による自主イベントなど利活用が推進されている。

以上